心理福祉学科

白川　充
増田　幹司
山﨑　洋史
渡邊　兼行

家子　敦子
郡山　昌明
志水　田鶴子
中嶋　みどり

茂木　千明
結城　裕也
高田　洋平
三浦　和夫
吉田　弘美

自 己 点 検 表

教員個別表

フ リ ガ ナ　シラ　カワ　ミツル 氏　名　白　川　充	職　名　教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　社会学修士 （大学名）　東北福祉大学　（取得年月） 1984 年 3 月

２. 教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績（2019.4～2024.5）

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　要
1. リアクションペーパーによる授業理解度と質問内容の把握	2004～ 現在に至る	講義科目は、授業展開と受講者数の関係で、教員側からの説明、解釈を伝えることが中心である。そこで、LMS を活用しリアクションペーパーに、①「理解できたこと」、②「理解できなかったこと・感想」を提出してもらうことにより、授業内容に関する学生理解を把握している。 また質問については、同じくLMSを活用し次回の授業内容とともに回答を付けた PowerPoint を掲載し、さらに授業の中で解説するようにしている。
2.「心理福祉総合演習Ⅰ～Ⅳ 白川ゼミ報告書」の作成	2021.4～ 現在に至る	3 年、4 年の白川ゼミ（授業名：心理副総合演習Ⅰ～Ⅳ）の報告書をまとめている。内容としては、1 年間のゼミ活動の総括と、ゼミで取り組んだ 3・4 年共通課題の成果、3 年のゼミ論、4 年の卒論である。

（2）過去 5 年間の研究業績（2019.4～2024.5）

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数

[著書] 1. ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック	共著	2019. 4	中央法規出版	白川充他	日本ソーシャルワーク学会監修、池田雅子、白川充他	30－33 頁 154－155 頁
2. ソーシャルワークの基盤と専門職	共著	2021. 1	ミネルヴァ書房	白川充他	空閑浩人、白澤正和、和気純子編著	133－148 頁
[その他] 1. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題	共著	2021. 12	日本社会福祉教育学会誌（第 24 号）	白川充他	保正友子、池田雅子、佐藤貴之	35－58 頁
2. 社会福祉施設におけるレジデンシャル・ソーシャルワーク（Residential Social Work）の構想と定着に関する実証的研究－母子生活支援施設の機能強化を中心に－」（研究報告書）	共著	2022. 11	全国母子生活支援施設協議会・日本ソーシャルワーク学会による施設ソーシャルワークに関する共同研究会	白川充他	白川充、菅田賢治、芳賀恭司編著	29－30 頁 35－42 頁 62－65 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共著の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月	発表場所
1. 施設ソーシャルワーク（RSW）再考－社会福祉法人と社会福祉施設におけるソーシャルワークの位置と検討課題－	2019. 7	日本ソーシャルワーク学会　第 36 回大会　学会企画シンポジウム B（淑徳大学）

（シンポジスト）		
2. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題（コーディネーター）	2021. 6	日本社会福祉教育学会　第 17 回大会　学会企画シンポジウム（オンライン開催）
3. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討（1）－A 施設を退所した 14 事例の分析と考察－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会　第 39 回大会　自由研究報告（オンライン開催）
4. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討（2）－母子支援員へのインタビュー調査－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会　第 39 回大会　自由研究報告（オンライン開催）
5.「座談会：学会創立 50 周年を展望する　第 1 部・日本ソーシャルワーク学会の沿革と活動と今後の展望、第 2 部・指定討論者の発題（学会活動の評価と要望）」（コーディネーター）	2023. 7	日本ソーシャルワーク学会　第 40 回大会　記念企画（東北福祉大学）

Ⅱ　所属学会

学会名	役職	入会年月（西暦）
日本社会福祉学会		1983
日本ソーシャルワーク学会	2012. 4～2024. 7　学会理事	1995
日本社会福祉教育学会	2014. 10～2017. 9　学会理事 2020. 6～2026. 6　学会理事（副会長）	2006

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）

３. 特記事項

（講演会・講習会等）
1. 社会福祉士・精神保健福祉士　実習担当教員講習会（講師）（2015～2018）

（社会的活動）
1. 社会福祉法人仙台いのちの電話　評議員（2010.12～2025　定時評議員会）
2. 日本社会福祉学会　学会機関誌査読委員（2018.1～2025.12）
3. 社会福祉士及び精神保健福祉士試験委員（2019.5～2022.4）
4. 全国母子生活支援施設協議会　協議員（2021.4～2023.3）

（大学の運営管理上の実績）
1. 総合福祉学科　人間福祉専攻主任（2007.4～2009.3）
2. 学生部長（2009.4～2013.3）
3. 教務部長（2013.4～2014.3）
4. 人間学部長（2014.4～2016.3）
5. 心理福祉学科長（2016.4～2017.3）
6. 人事計画委員会　委員長（2019.4～2021.3）
7. 教務部長（2021.4～2024.3）
8. 人間学部長（心理福祉学科長兼務）（2024.4～）

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　マスダ　カンジ 氏　　名　増田　幹司	職　　名　特任教授 人間学部　　心理福祉学科	取 得 学 位　経済学修士 （大学名）早稲田大学　　（取得年月）1987 年　3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
仙台白百合女子大学における社会福祉士養成課程等指定科目の担当においては、学生の主体的かつ効率的な当該指定科目のカリキュラム内容習得の学びを推進するために、 ・原則授業毎回の当該カリキュラムに適応したテキストに沿った予習的課題の出題	2020.9 ～	・厚生労働省社会援護局等のガバナンス下に授業内容等がある社会福祉士養成課程等の指定科目であることから、当該カリキュラムに適応したテキストを使用するとともに、「教育に含むべき事項（内容）」のボリュームが多い社会保障のような指定科目においては、ほぼ毎回原則としてテキストに沿う予習的課題を課したうえで当該カリキュラムに忠実に沿った授業内容としつつテキストの内容を学生に習得させるよう努めている。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
［著書］						
1.「雇用労働における今日的課題」『社会保障の保守主義（増補改訂版）』	共	2018.3	ブックウェイ	岸　功		pp.309-324
2.「外国人観光客にも適用される事故補償制度」『ニュージーランド Today』	共	2019.4	春風社		ニュージーランド学会 35 名	pp.142-143
3.「障害者の就労」、「仕事」『医療福祉サービスガイドブック 2024 年度版』	共	2024.4	医学書院		鈴木豊、河村愛子、小林夏妃、関田渉、平林朋子 26 名	pp.167-168 pp.170-171 pp.245-263
［学術論文等］						
1.ニュージーランド事故補償制度（通称 ACC）に関する一研究－適用範囲拡大に向けた議論と動向に関する検討－（査読付）	単	2018.3	『ニュージーランド研究』第 24 巻・ニュージーランド学会			pp.15-37

2.ニュージーランド事故補償制度(通称ACC)と医療事故に関する一検討－治療行為による傷害(Treatment Injury)という概念が誕生するまでのACCの沿革－(査読付)	単	2018.3	『公共政策学』第12号・北海道大学公共政策大学院			pp.111-136

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
ニュージーランド学会	監事(2011.12～)	2007.7
日本高齢者虐待防止学会		2008.4
日本キャリアデザイン学会		2010.3
日本ニュージーランド学会		2017.5
過労死防止学会		2017.5

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)

3．特記事項

旭川成年後見支援センター　運営委員会　運営委員長(2015.4～2019.3)
旭川市社会福祉協議会　理事(2015.5～2019.6)
旭川市国民健康保険運営協議会　会長代行(2015.9～2017.9)

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ヤマザキ　ヒロフミ 氏　　名　山崎　洋史	職 名　教　授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　博士(海洋科学)　（大学名）東京海洋大学 （取得年月）2013 年 3 月 取 得 学 位　博士(宗 教 学)　（大学名）國學院大學 （取得年月）2020 年 3 月

2．教育･研究業績表

(1)過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概　　要
① 教育内容・方法の工夫 ・プロジェクト・ベースト・ラーニング（世田谷区連携プロジェクト名） 「世田谷区　若者のこころの居場所　アイリス」	2015 年 4 月～ 2021 年 3 月迄	東京都世田谷区長及び子ども若者部と、大学山崎研究室の地域連携プロジェクト。 文科省提唱から始まる「心の居場所」「若者の居場所つくり」として，世田谷区分庁舎（三軒茶屋）一室を委嘱され，週 2 回「若者のこころの居場所　アイリス」と命名し地域の高校生から 25 歳までの女性対象の各発達に応じた心の居場所づくり企画・運営。 臨床心理専攻の大学院生がボランティア活動の一環として運営。 （X：https://twitter.com/irits_sancha）
・「教育心理学」(2 年次) 授業におけるロールプレイング 及びフィードバック、アクティブラーニング	2008 年 4 月～ 2021 年 3 月迄	「教育心理学」(2 年次)の授業において，ロールプレイ，ゴールセッティングエクササイズ，セルフモニタリングを実施。各発達段階における理論と学習支援体験。
・心理学ピア・ラーニング合宿	2017 年 4 月～ 2021 年 3 月迄	人間関係ゲームによるグループ合宿を年に２回・２泊３日の大学研修施設で企画・実施。心理学的集団体験及びピア・フィードバックを中心に，学生によるテーマ・エクササイズ等自主企画合宿を実施。大学よりプロジェクト予算獲得。
・コミュニティ・サービス・ラーニング 「心理支援 CSL」	2011 年 4 月～ 2021 年 3 月迄	東京都区市教育委員会・神奈川県市教育委員会・国立青少年センター等と連携し，21 自治体・団体における学生ボランティア経験を授業

		単位とした。 　フィードバック，シェアリング，プレゼンテーションを毎年実施。不登校支援，学修支援などを通じた心理支援の実際（コミュニティボランティア）。　年末に学生・自治体・教員参加の成果発表会を実施し成果のシェアリングを実施。
・「臨床心理学」（3 年次）・「臨床心理学概論」（2 年次）授業における ZOOM 遠隔ロールプレイング及びフィードバック	2020 年 4 月～ 2021 年 3 月迄	コロナ禍中で導入された大学リモート授業（ZOOM）において、カウンセリング面接ロールプレイ及びフィードバック、シェアリングを実施。ブレークアウトルーム及びチャット、投票機能等などの活用による双方向スキル学習の深化。学生からの評価が極めて高かった。アフターコロナの授業における大きな示唆が得られた。
・「教育実践演習（中高）」授業における 宮城県公立小中学校教育指導者との協働学習 ・アクティブラーニング	2021 年 4 月～ （現在に至る）	宮城県小中学校で指導的立場にある教育委員会指導主事・教諭・管理職による協働学習の実施。学校教育現場における効果的実践と、模擬体験を通じた児童生徒ロールプレイによる気付き促進とモチベーションの向上を企図したアクティブラーニング。 　学校教育に対する具体的イメージの醸成の視点から学生の評価が極めて高い。
・「心理調査概論」授業における 東北大学学部・大学院学生（理系）との協働学習 ・ピア・ラーニング	2023 年 4 月～ （現在に至る）	「心理支援」を深化させるためのベースライン・アセスメントにおいて、心理調査法（科学的アプローチ）を深化させることは極めて重要である。本学文化系学部の心理福祉系学だけではなく、東北大医学・工学などの理系学部・大学院生との協働学習の実施。問題の明確化、先行研究リサーチ、仮説設定、調査項目の精選、グーグルフォームによる調査実施、多変量解析、高圧に至る、科学的リサーチの方法のアクティブラーニング。 　理系学生のデータと技術を用いた心理福祉上の課題解決に取り組みに対しての気づきの視点から学生の評価が極めて高い。
②　作成した教科書（一部再掲） ・「教育の最新事情」　（共著）　ミネルヴァ書房	2009 年 8 月	教員免許状更新講習講座　講師「教育の最新事情」

・「学校教育とカウンセリング力」（単著）学文社	2009 年 11 月	学校教育における児童・生徒・教師に対する心理支援
・「新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学」（共著）学文社	2017 年 4 月	心理学概論書
・「児童心理　子供の心をつかむ先生「その場に合った自己開示のできる先生」（共著）金子書房	2018 年 9 月	小学校教職員対象の教書。クラス運営における教師の自己開示の重要性に関する内容
・「学校教育相談の理論・実践事例集　いじめの解明 学校コンサルテーションの展開」（共著）第一法規	2021 年 3 月	教職を目指す学生及び、学校教職員対象の教書。いじめ対応に関する学校コンサルテーションの展開に関する概論。
・「救助人材育成ガイドライン」（有識者執筆協力）総務省消防庁	2023 年 3 月	消防隊員教育における救助隊長としてのマインドや、現場・訓練指導における理想的な救助隊長像をもとにした指導ガイドライン
・「訓練効果を高めるための救助訓練指導マニュアル」 （有識者執筆協力）総務省消防庁	2023 年 3 月	消防隊員教育における訓練効果を高めるため救助訓練指導の流れ、隊員の主体性を高める訓練指導のポイント、効果的な振り返り手法指導マニュアル
・「多様化する救助事象に対応する救助体制のあり方に関する高度化検討会（救助人材育成）報告書」（有識者執筆協力）総務省消防庁	2023 年 3 月	「救助人材育成ガイドライン」「訓練効果を高め るための救助訓練指導マニュアル」及び動画の活用の周知、全国の救助隊長及び救助隊 員の育成に関する実態、課題及びニーズの把握と共に、必要な見直しを行いながら、時代に即した救助人材の育成について、検討していくこと。および、消防大学校と協働して、救助人材の養成及び育成に努めること。などの育成マニュアル・ガイドラインの概説。
③ 教育方法・実践に関する発表、講演		
・「教育技法」講演、全国自治体において多数	年間数十回	全国各自治体（総務省消防・法務省・教育）初級・中級・上級幹部対象講演、「教育技法」「発達に関する理解」他
・都県教育委員会、市教育委員会等における教員研修等	〃	学校管理職研修、現職教師対象講演「認知行動的セルフモニタリング」「メンタルヘルス」「認知教育」「心理教育」等
・学会ワークショップにおける講演多数		日本学校教育相談学会、国家資格キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、他、「教育心理学」「臨床心理学」「心理教育」「心理アセス

		メント」「認知行動療法」等
ex.ワークショップ（2023 年） 「学校教育相談実践を、心理学論文（科学論文）に仕上げる方法 ー現場に応じた素晴らしい実践活動の成果を次世代に繋いでいくためにー	2023 年 8 月	日本学校教育相談学会 第 35 回総会・研究大会　（新潟大会）
ex.講演（2023 年） ・「人を育てるための教育技法ー救命救急セミナーー」	2023 年 9 月	第 41 回福岡救急医学会　学術集会　電気ビル共創館（福岡市天神）
他　多数		〃

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書･論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻･号数)等の名称	共著者名(共著の場合)	編者名と当該執筆者数(編著の場合)	該当頁数
〔著書〕 青年期食行動異常と認知行動的セルフモニタリング	単著	2015 年 7 月	学文社 JSPS 科学研究助成事業 （科学研究費補助金） （研究成果公開促進費） （心理学分野　学術図書）			
児童心理小学一・二年生の家庭教育こんなときどうする?具体例と対処法「朝になると登校を渋ります」	共著	2016 年 3 月	金子書房		有村久春　他	102－105 頁
新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学 第 2 章　知ることの過程 1.　認知のメカニズム 2.　記憶システム 第 3 章　心の発達 1.　発達のとらえ方」 第 7 章　こころを診る	共著	2017 年 4 月	学文社	吉武光世 他		17－50 頁 94－110 頁 195－201 頁

9－4.　認知行動療法						
児童心理　子供の心をつかむ先生 「その場に合った自己開示のできる先生」	共著	2018 年 9 月	金子書房		有村久春　他	25－31 頁
学校教育相談の理論・実践事例集いじめの解明 「学校コンサルテーションの展開」	共著	2021 年 3 月	第一法規		今井五郎　他	3－14 頁
新版　訓練指導・統制マニュアル	有識者協働	2021 年 6 月	東京法令出版	東京消防庁		第1部
宗教と認知行動的セルフモニタリング －青年期の適応を通じて－	単著	2022 年 3 月	学文社 JSPS 科学研究助成事業 （科学研究費補助金） （研究成果公開促進費） （心理学分野　学術図書）			
救助人材育成ガイドライン	有識者協働	2023 年 3 月	総務省消防庁	総務省消防庁		
訓練効果を高めるための 救助訓練指導マニュアル	有識者協働	2023 年 3 月	総務省消防庁	総務省消防庁		
〔論文〕 コミュニケーション活動を取り入れたキャリアデザインサポートの研究 －体験的科目参加前後における学生の教職への意識及び共感性検討－ （査読付）	共著	2015 年 3 月	学苑(893 号), （昭和女子大学）	岩瀧大樹		77－85 頁
発達障害を抱える女子生徒の学校適応過程に関する事例研究 －中学校教育相談室での 2 年間の支援から－ （査読付）	共著	2015 年 3 月	生活心理研究所紀要 17, （昭和女子大学）	岩瀧大樹 他		37－43 頁
大学生のキャリアデザインサポートに関する研	共著	2015 年 4 月	群馬大学教育学部紀要	田島祐奈		23－34 頁

究Ⅱ ー目標達成方略に焦点を当てた探索的検討ー （査読付）			人文･社会科学編第 64 巻, （群馬大学）	他		
教職志望学生のメンタルヘルスに関する研究 ー教育実習事前におけるサポートの検討ー （査読付）	共著	2015 年 4 月	群馬大学教育実践研究（第 32 号）（群馬大学）	岩瀧大樹		49ー58 頁
集団宿泊体験による学校移行に関わる不適応予防の検討Ⅰ ー複数の小規模小学校を対象とした合同事前介入の試験的実践ー （査読付）	共著	2015 年 8 月	教職研究（第 25 号）, （立教大学　教職課程）	岩瀧大樹		97ー108 頁
女子大学生における進路選択に対する自己効力及び社会人基礎力の研究 （査読付）	共著	2016 年 2 月	学苑　人間社科学部紀要（第 904 号）（昭和女子大学）	田島祐奈 他		10ー20 頁
コミュニケーション活動を取り入れたキャリアデザインサポートの研究Ⅱ ー子どもへのサポート体験を通じた学生のリーダーシップおよび協働作業に対する意識の変容 （査読付）	共著	2016 年 3 月	群馬大学教育学部紀要 人文･社会科学編第 65 巻, （群馬大学）	岩瀧大樹		25ー36 頁
スクールカウンセラーによる LD 傾向の男子中学生への援助事例研究 ー学習サポートおよび学級担任とのコンサルテーションを中心にー （査読付）	共著	2016 年 4 月	教職研究 28, （立教大学　教職課程）	岩瀧大樹		47ー59 頁
青年期版不器用さの自己認知尺度作成の試み ー運動経験と過去･現在の自己認知の検討ー （査読付）	共著	2016 年 10 月	群馬大学教育実践研究（34 号）（群馬大学）	林由紀子 他		17ー26 頁

進路選択における自動思考と対処行動が進路選択自己効力に及ぼす影響 （査読付）	共著	2017 年 2 月	学苑　人間社会学部紀要(916)，(昭和女子大学)	田島祐奈 他		1－11 頁
宗教観と青年期適応に関する研究 －宗教観・信仰の有無と適応感・アイデンティティ確立の因子間相関－ （査読付）	単著	2017 年 2 月	國學院大學大学院紀要 －文学研究科－第 48 号 （國學院大學）			61－77 頁
青年期の不器用さの自己認知 －コミュニケーション・スキルおよび適応感との関連－ （査読付）	共著	2017 年 3 月	生活心理研究所紀要 19 (昭和女子大学)	林由紀子 他		71－82 頁
大学生のキャリア形成過程における Planned Happenstance Skills と精神的健康度の関連 （査読付）	共著	2017 年 3 月	群馬大学教育学部紀要 人文･社会科学編 66 巻 (群馬大学)	田島祐奈 他		31－40 頁
青年期の昇進意欲尺度作成の試み －男女差に着目して－ （査読付）	共著	2018 年 1 月	群馬大学教育実践研究第 35 号（群馬大学）	渡邊洋子 他		27－36 頁
心理的居場所感が対人ストレスコーピングに与える影響 －青年期のシャイネスに注目して－ （査読付）	共著	2018 年 1 月	群馬大学教育実践研究第 35 号 （群馬大学）	渡邊美咲 他		37－48 頁
宗教観と青年期適応に関する研究 －宗教観認知行動的変数およびストレスコーピングに関する相関研究－ （査読付）	単著	2020 年 2 月	國學院大學大学院紀要 －文学研究科－第 51 号 （國學院大學）			25－44 頁
宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する	単著	2020 年 3 月	國學院大學大学院文学研究			

研究		（2021 年 4 月）	科神道学・宗教学専攻　博士学位論文 2021 年度 JSPS 科学研究助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）（心理学分野　学術図書）決定（再掲）			
心理的居場所が過剰適応傾向に及ぼす傾向 （査読付）	共著	2020 年 3 月	生活心理研究所紀要 22 （昭和女子大学）	三浦はるか		47－58 頁
心理専門家への援助要請行動を阻害する認知構造モデルの検討 －完全主義認知と恥感情に着目して－ （査読付）	共著	2021 年 3 月	生活心理研究所紀要 23 （昭和女子大学）	松田琴音		87－102 頁
コロナ渦における不登校支援に関する研究 －遠隔授業（Zoom 利用）による学校不適応感の向上－	単著	2022 年 6 月	学校教育相談研究　第 31 号 （日本学校教育相談学会）			1－8 頁
スピリチュアリティの変化とスピリチュアルペイン減少の相関について	共著	2024 年 6 月	印度学宗教学会論集第 50 号	徳増平、 谷山洋三		

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
ストレス認知理論を用いた高齢者家族介護者の心理的因果モデルの検討 －ソーシャルサポートと家族機能に着目して－	2015 年 5 月	第 16 回日本認知症ケア学会大会 （北海道医療大学）
宗教観がアイデンティティ確立と適応に及ぼす影響	2015 年 9 月	宗教研究第 88 巻別冊　第 73 回学術大会紀要日本宗教学会 （同志社大学）
宗教観が青年期適応に及ぼす影響 －集団的および個人的認知変数－	2016 年 9 月	宗教研究第 89 巻別冊　第 74 回学術大会紀要　日本宗教学会 （創価大学）

宗教観と青年期適応に関する研究 ー認知行動的変数相関ー	2017 年 9 月	宗教研究第 90 巻別冊　第 75 回学術大会紀要　日本宗教学会 （早稲田大学）
学内連動を促進する大学システムの構築に関する考察 ー大学管理職としての全学的学生支援システムの改善と確立ー	2018 年 5 月	第 36 回日本学生相談学会 （関東学院大学）
宗教観が青年期適応に及ぼす影響 ー主観的幸福感とストレスー	2018 年 9 月	宗教研究第 91 巻別冊　第 76 回学術大会紀要　日本宗教学会 （東京大学）
日本学校教育相談学会発足 30 周年シンポジウム記念企画 学校教育相談 30 年の歩み　ーその未来を展望するー 企画・シンポジスト講演	2018 年 8 月	第 30 回日本学校教育相談学会総会・研究大会（東京大会） （昭和女子大学）
学内連動を促進する大学システムの構築に関する考察 ー全学的学生支援システム構築と大学における HR 担当教員（クラスアドバイザー）制度ー	2020 年 5 月	第 38 回日本学生相談学会 （九州大学）
宗教と青年期適応に関する研究 ー個人認知変数と抑うつスキーマー	2020 年 9 月	宗教研究第 93 巻別冊　第 79 回学術大会紀要　日本宗教学会 （駒澤大学）
宗教と認知行動セルフモニタリングに関する研究 ー臨床事例研究ー	2021 年 9 月	宗教研究第 94 巻別冊　第 80 回学術大会紀要　日本宗教学会 （関西大学）
宗教の認知行動的適応御支援における役割 ー効果要因分析から見えてくるものー	2022 年 12 月	神道宗教学会第 76 回　令和 4 年度学術大会 （國學院大學）
宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究 ー心理支援における宗教の役割と可能性ー	2023 年 5 月	第 64 回印度学宗教学会学術大会 （東北大学）
宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究 ー心理支援上の宗教の役割ー	2023 年 9 月	宗教研究第 96 巻別冊　第 80 回学術大会紀要　日本宗教学会 （東京都立大学）

スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリング	2024 年 5 月	第 65 回印度学宗教学会学術大会 （東北大学）
宗教と認知行動的セルフモニタリング―学生相談におけるスピリチュアリティの意味付け―	2024 年 5 月	日本学生相談学会第 42 回大会 （東北大学）

Ⅱ　所属学会

学会名	役職	入会年月（西暦）
日本教育心理学会		1980
日本学校教育相談学会	東京都理事長（2012～現在に至る） 学会誌編集委員（2005～現在に至る） 第 30 回日本学校教育相談学会総会・研究大会（東京大会）実行委員長（2018）	1990
日本学生相談学会		1991
日本心理学会		1994
日本認知行動療法学会		2001
日本宗教学会		2014
印度学宗教学会		2022
日本臨床宗教師会		2024
他		

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）

助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
日本学術振興会	2015	平成 27 年度 JSPS 科学研究助成事業（科学研究費研究成	「青年期食行動異常と認知行動的セルフモニタリング」 （心理学分野　学術図書）	

		果公開促進費）		
日本学術振興会	2021	令和 3（2021）JSPS 年度科学研究助成事業（科学研究費研究成果公開促進費）	「宗教と認知行動的セルフモニタリングー青年期の適応を通じてー」（心理学分野　学術図書）	
人間発達研究センター	2022	令和４年度研究助成	「宗教と認知行動的セルフモニタリング　ー宗教感と適応ー」	
人間発達研究センター	2023	令和５年度研究助成	「宗教と認知行動的セルフモニタリング　ースピリチュアリティと感情・行動ー」	

３．特記事項

2003	岡山大学　医学部　非常勤講師	（現在に至る）
2006	総務省　消防庁　消防大学校　客員教授	（現在に至る）
2010	JASF 医事科学委員会委員（臨床心理士）	（現在に至る）
2010	日本キャリア開発協会 JCDA 資格更新講座講師	（現在に至る）
2010	日本産業カウンセラー協会養成・更新講座講師	（現在に至る）
2014	日本学校教育相談学会　学会賞受賞　「学校教育における心理アセスメントとゴールセッティング」	
2015	教員免許状更新講習講座講師「教育の最新事情」	（2020 年 3 月迄）
2017	東京海洋大学感謝状（保健管理センター学生相談心理カウンセラー永年勤続）	
2017	大学基準協会　大学評価委員	（2021 年 3 月迄）
2017	総務省　消防庁　女性吏員活躍推進アドバイザー	（現在に至る）
2017	国家資格キャリアコンサルタント更新講習会講師「認知行動療法」	（現在に至る）
2018	荒川区　いじめ問題対策委員会委員長	（現在に至る）
2019	目黒区　いじめ問題対策委員会委員	（現在に至る）
2019	国家資格　公認心理士現任者講習会講師	（教育領域、産業領域）
2020	法務省　矯正研修所研修講師（教育技法）	（現在に至る）
2020	日本スクールカウンセリング推進協議会認定委員	（現在に至る）
2021	総務省　消防庁　救助技術高度化等検討会委員	（2023 年 3 月迄）

2022	仙台市　自殺対策連絡協議会委員	（現在に至る） 他　多数

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ワタ ナベ トモ ユキ 氏　　名　渡 邊 兼 行	職　　名　教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　Ph.D. （大学名）　タフツ大学　（取得年月） 2001 年 5 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1.「心理学」・「心理学概論」 3 回の中間テストとそのフィードバックによる自己制御学習の促進	2017.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、中間テストを 3 回設け、その解答返却を 1 週間以内に行った。これにより、受講者の理解度の把握を助け、各自が自己の進度を確認しながら授業に参加できるような体制を整えた。
2.「心理学」・「心理学概論」 実験参加を評価に取り入れることによる、心理学の実証的側面の体験的理解の促進	2009.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、教員や上級生の実施する実験への参加を成績評価の一部に反映させた。これによって、心理学の実証的側面に触れる機会を設け、体験的理解を促すことを狙った。
3.「心理学」・「心理学概論」 LMS による自学自習の促進	2013.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
4.「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 毎回の予習課題の提示	2011.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
5.「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
6.「学習・言語心理学」 毎回の予習課題の提示	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。

7.「学習・言語心理学」 LMS による自学自習の促進	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、LMS を利用して、授業資料の提示、予習課題の提出などを web 上から可能とし、学生の自学自習を促した。
8.「心理学基礎論」 毎回の予習課題	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を作成し、課した。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
9.「心理学基礎論」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	LMS を利用して、資料の配布、課題の提出も web 上から可能となった。
10.「心理学基礎論」 高い比重の発言点を導入	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、活発な授業参加と学生の表現力の向上を目指して、発言の成績に対する比重を 25%とし、積極的な発言と授業参加を促した。
11.「心理学基礎実験Ⅰ」・「心理学実験Ⅱ」のコーディネーター	2009.4～	心理学担当教員 3 名で、小グループを担当して行う実験実習の授業において、コーディネーターとして授業のプログラム作り、教員間の調整作業に従事した。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
[著書] 1. 自ら実感する心理学 ―こんなところに心理学―	共	2021.1	教育情報出版		土肥伊都子（編） 他 25 名	57-58 63-64
[論文] 1. The self-choice effect from a multiple-cue perspective.	共著	2004.2	Psychonomic Bulletin & Review. 11	Watanabe, T., & Soraci, S. A.		168-172
翻訳						

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表

発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
1. 洞察問題解決の学習と転移	2019.9	日本心理学会第 83 回大会（立命館大学）
2. 思い出し笑いについての予備的研究	2021.8	日本笑い学会第 28 回大会（椙山女学園大学）

Ⅱ　所属学会

学会名	役職	入会年月（西暦）
日本心理学会		1998
日本認知心理学会		2003
日本笑い学会		2021

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）

助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）

3. 特記事項

・大学基準協会　評価委員（2022 年度）

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　カノ コ アツ コ 氏　　名　家 子 敦 子	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　看護学修士 （大学名）　宮城大学大学院　（取得年月） 2008 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
介護実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ） 講義「介護過程展開法」 講義「こころとからだのしくみ」 講義・演習「医療的ケアⅡ」 演習「介護福祉総合演習」	2011～2022	
講義「人体の構造と機能及び疾病」	2018～現在	
演習「心理福祉基礎演習Ⅰ～Ⅲ」	2016～現在	
演習「心理福祉専門演習Ⅰ～Ⅳ」	2016～現在	
演習「共通基礎演習」	2016～現在	
レクリエーション論	2022～現在	
レクリエーション演習	2022 年～現在	
コミュニケーション演習	2022 年～現在	
レクリエーション実習	2023 年～現在	
食事介助演習	2022 年～現在	

保健医療と福祉	2023 年～現在	
生活と健康 D	2023 年～現在	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2023 年	
精神保健福祉援助実習	2023 年	

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
［著書］						
［論文］						
・A 県のへき地診療所における医療提供体制の特徴	共	2023 年 3 月	日本ルーラルナーシング学会誌第 18 巻	共：霜山真他 6 名		P25～P32
・「コミュにエーション演習」の教育的効果に関する検討－受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着目して－	共	2022 年	仙台白百合女子大学紀要 27 号	茂木千明・結城裕也・家子敦子		P117～135
・「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022 年 3 月	聖和学園短期大学紀要第 59 号	東海林初枝他 2 名		
・介護過程展開様式のプロセスからみえた介護過程スキル向上のための課題－介護過程展開法施設研修の 5 年間の取り組み－	共	2017	仙台白百合女子大学紀要 22 号	東海林初枝		
・女子学生の生活習慣病という観点からみる生活習慣改善への関心―インターネット資料読み取り型学習から―（研究ノート）	単	2015	仙台白百合女子大学紀要 19 号			
・終末期ケア論における授業材料としての「病家須知」の検討	単	2014	仙台白百合女子大学紀要 18 号			P83～87
［実践報告］						

・地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践―2023 年度レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取組―	共	2024 年 5 月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第 3 号	吉田　弘美・仁藤　喜久子		
・地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践ーレクリエーション・インストラクター養成課程における実習の可能性をふまえてー	共	2023 年 2 月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第 2 号	仁藤喜久子		
・レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取り組み	共	2022 年 2 月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第 1 号	仁藤喜久子		
[報告書] ・介護福祉士養成課程　新カリキュラム教育方法の手引き（平成30年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業）	共	2019 年 3 月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	秋山昌枝他16名		
・介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業　報告書（令和元年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業）	共	2020 年 3 月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	荏原順子他25名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書（令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業）	共	2020 年 3 月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他3名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書（第 2 報）（令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業）	共	2021 年 3 月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書（第 3 報）（令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業）	共	2022 年 3 月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
・宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニーズ第 7 次宮城県地域医療計画（へき地医療）を踏まえて	共	2022 年 3 月	東北ルーラルナーシング研究会	大塚眞理子他 7 名		

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

外国人のための介護福祉専門用語辞典	共	2021．3	https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/default.aspx 公益社団法人 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム	白井孝子他5名	白井孝子他3名	領域：こころとからだのしくみ

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
・施設介護職員へのキャリアアップ支援（第 2 報） —介護過程の実践研修前後の意識の変化より—	2013.10	第 21 回日本介護福祉学会
・介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 —介護過程展開法の施設研修により—	2014.10	第 12 回日本介護学会

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本介護福祉士学会	2019 年～2021 年評議員	2003～2022
介護福祉教育学会		2004～2022
日本ルーラルナーシング学会	2019 年第 15 回学術集会実行委員	2009～2023
日本在宅ケア学会		2012～現在
日本女性医学学会		2022～現在

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成（社福振福二第 44 号）	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300 万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020	令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成（社福振福二第 53 号）	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300 万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021	令和 3 年度社会福祉振興関係調査研究事業助成（社福振福二第 43 号）	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300 万

宮城大学	2021	令和３年度宮城大学教員研究費（指定研究費）	宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニーズ 第７次宮城県地域医療計画（へき地医療）を踏まえて	47 万
日本レクリエーション協会	2023	令和５年度 課程認定校研究連絡会議研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流 「健康スポレクひろば」の実践 ―レクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果―	4.5 万

３．特記事項

【講演会・研修会講師】

2015 年　宮城県福祉・介護人材確保対策事業　修講師派遣事業研修会講師

2015 年　宮城県福祉・介護人材確保対策事業　キャリアアップ支援研修会講師

2018 年　社団法人宮城県介護福祉士会主催　介護福祉士基本研修　講師

2019 年　宮城県老人福祉施設協議会主催　看取りケア研修講師

2019 年　社団法人宮城県介護福祉士会主催　介護福祉士ファーストステップ研修　講師

2020 年　10 月～2021 年 3 月　公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成（社福振福二第 44 号）を受け、モデル研修会Ⅰ期を企画開催。

2021 年　4月～2021 年8月　公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成（社福振福二第 53 号）を受け、モデル研修会Ⅱ期を企画開催。

2023 年　社団法人宮城県介護福祉士会主催　介護福祉士ファーストステップ研修　講師

【事業助成】

2015 年　厚生労働省告示　宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、聖和学園短期大学と宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象に講師派遣事業介護過程の展開研修会を開催した。

2015 年　厚生労働省告示　宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護職員・養成課程所属学生合同事例報告会を企画開催した。

2017 年　厚生労働省告示　宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

2018 年　厚生労働省告示　宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

【社会活動】

2014 年　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会主催　介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員　～2019 年

2014 年　聖和短期大学　非常勤講師　　～現在

2017 年　仙台市健康福祉局保健高齢部介護保険課介護人材確保取り組み実行委員　　～2018 年

2019 年　日本ルーラルナーシング学会第 15 回学術集会実行委員　～2020 年 9 月

2019 年　日本介護福祉学会評議員　～2022 年

2022 年　宮城県委託事業　宮城県介護福祉士会介護施設コンサル事業　～2023

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　コオリヤマ　マサアキ 氏　　名　　郡山　昌明	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉学科	取得学位　社会福祉学修士 （大学名）東北福祉大学大学院　（取得年月）2006 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1.演習科目において、臨床場面でより具体的な資料を用いて理解を深める工夫をした。	2003.4～	演習は、使用テキストを中心にその事例を用いて行っているが、学生がイメージできない状況であった。 2003.4 に本学に就任して以来、臨床での経験を活かし、社会資源等の資料をより現実的なものを学生に提供し、説明を加えて行った。
2.各授業において「振り返り」票を用いて、学生の講義に対する理解と自らの【振り返り】を記載して次回の講義内容へ反映させた。	2003.4～	授業において「学習の振り返り」票を配付した。その中で学習の課題、授業への参加、感想と提案、イラスト（授業で受けた印象など）を記載してもらい、個々の学生の疑問、到達度、意欲などを把握して次回の授業の改善や個々の学生への指導材料とした。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
[著書] [論文] 1. 精神障害者の就労支援における課題の明確化―就労継続支援 B 型施設における利用者を中心に	単著	2017.03	仙台白百合女子大学紀要　第 21 号			105-117
2. 就労継続支援 B 型事業所における事業内容に関する研究―宮城県内の就労継続支援 B 型事業	単著	2021.03	仙台白百合女子大学紀要 第 25 号			47―61

所を中心に一 【資料】 1. 新型コロナウィルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の精神的健康に及ぼす影響—仙台白百合女子大学におけるパネル調査から一	共著	2021. 03	仙台白百合女子大学紀要	結城裕也・郡山昌明・渡辺兼行		119-137

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本医療社会福祉学会 日本社会福祉学会 日本精神保健福祉学会 東北社会福祉研究会		1986.4～ 2005～ 2015～ 2020～

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去５年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（千円）

３．特記事項

東北こども福祉専門学院 非常勤講師　2013～
仙台徳洲看護専門学校　非常勤講師　2017～
宮城県社会福祉協議会　平成30年度宮城県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修　講師　2018.10.31
自衛隊仙台病院准看護学院　看護専門科目「精神看護」のうち「心の働きと精神保健」「精神保健の歩み」「精神保健福祉の現状と課題」担当　　講師　2019.2.1及び2.8
仙台白百合学園高等学校　「総合福祉」　2023.4.13, 4.27, 5.11,　5.18, 5.25
特定非営利活動法人ソキウスせんだい　「福祉サービス利用に関する苦情解決制度」第三者委員　2012～
社会福祉法人　ゆうゆう舎　理事　2009.4～
NPO法人雲母倶楽部　理事

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　シミズ　タヅコ 氏　　名　志水　田鶴子	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　修士(社会福祉学) （大学名）　東北福祉大学　（取得年月） 2001 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
社会福祉士・精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムにおけるカスタマーティーチャーの活用に関する研究を行った	2005.1～現在	社会福祉士・精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムを効果的に運用するために、施設利用者・実習指導者・教員が学生に対して指導を行うプログラムを作成した。演習でのロールプレイに施設利用者に参加するカスタマーティーチャーを導入し、学生への指導を施設利用者にも担ってもらう教育体制を構築した。この取り組みについては、「社会福祉士養成校における実習・演習カリキュラムの具体的展開に関する研究−実習先施設利用者・職員・教員の協働によるプログラム作成及び試行をふまえて」,仙台白百合女子大学紀要 2004,第 9 巻に発表した。

（2）過去 5 年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
高次脳機能障害者の就労継続支援 B 型事業所の通所継続のプロセス	単著	2024.3	東洋大学、東洋大学大学院紀要（第 60 集）			173−188
社会とのつながりが途切れるプロセス—高次脳機能障害者を対象とした複線経路・等至性モデル（TEM）分析を通して—	単著	2021.3	一般社団法人日本社会福祉学会　関東部会　社会福祉学評論(21)			117−127
［著書］ どこでも誰でもできる　地域づくりハンドブック　介護保険における生活支援体制整備事業のすすめ方	共著	2019.1	中央法規出版	柳史生　志水田鶴子,大坂純	柳史生　3 名	16−47

実習指導必携　プロソーシャルワーク入門	共著	2018,11	八千代出版	中嶌洋,志水田鶴子,大塚一郎,市川享子,大倉高志,宮元預羽,大賀有記,横山順一	中嶌洋　7名	16−21 24−27 100−103 119 135

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数
無						

学術研究発表

発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
無		
無		

Ⅱ　所属学会

学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1999
日本職業リハビリテーション学会		2000
日本医療社会事業学会		2002
日本地域福祉学会		2003
日本老年社会科学会		2003

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
文部科学省	2018.4～2022,3	2018 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）	生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターと協議体のあり方に関する研究	1,600,000

３. 特記事項

2020 年度　東北文化学園大学医療福祉部　保健福祉学科　非常勤講師
2020 年度　東北子ども福祉専門学院　非常勤講師
2020 年度　宮城県都市計画審議会委員
2020 年度　宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2020 年度　仙台市立病院治験審査委員
2020 年度　塩釜市地域支えあい推進協議体　委員長
2020 年度　富谷市介護保険運営委員会委員
2020 年度　社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鈎取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員
2020 年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員・研修講師
2020 年度　登米市社会福祉協議会　登米市東和総合支所　研修講師
2020 年度　仙台市太白区民生委員児童委員協議会　研修講師
2020 年度　仙台市社会福祉協議会　研修講師

2021 年度　東北文化学園大学医療福祉部　保健福祉学科　非常勤講師
2021 年度　東北子ども福祉専門学院　非常勤講師
2021 年度　宮城県都市計画審議会委員
2021 年度　宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2021 年度　仙台市立病院治験審査委員
2021 年度　社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鈎取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員
2021 年度　塩釜市地域支えあい推進協議体　委員長
2021 年度　富谷市介護保険運営委員会委員
2021 年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員・研修講師

2022 年度　東北文化学園大学医療福祉部　保健福祉学科　非常勤講師
2022 年度　東北子ども福祉専門学院　非常勤講師

2022 年度　宮城県都市計画審議会委員
2022 年度　宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2022 年度　仙台市精神保健福祉審議会委員
2022 年度　仙台市立病院治験審査委員
2022 年度　塩釜市地域支えあい推進協議体　委員長
2022 年度　富谷市介護保険運営委員会委員
2022 年度　石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2022 年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員・研修講師
2022 年度　社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鈎取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2023 年度　東北文化学園大学医療福祉部　保健福祉学科　非常勤講師
2023 年度　東北子ども福祉専門学院　非常勤講師
2023 年度　宮城県都市計画審議会委員
2023 年度　宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2023 年度　仙台市精神保健福祉審議会委員
2023 年度　仙台市立病院治験審査委員
2023 年度　塩釜市地域支えあい推進協議体　委員長
2023 年度　富谷市介護保険運営委員会委員
2023 年度　石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2023 年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員・研修講師
2023 年度　社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鈎取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2024 年度　東北文化学園大学医療福祉部　保健福祉学科　非常勤講師
2024 年度　東北子ども福祉専門学院　非常勤講師
2024 年度　宮城県都市計画審議会委員
2024 年度　宮城県福祉有償運送運営協議会委員
2024 年度　仙台市精神保健福祉審議会委員
2024 年度　仙台市立病院治験審査委員
2024 年度　塩釜市地域支えあい推進協議体　委員長
2024 年度　富谷市介護保険運営委員会委員
2024 年度　石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー
2024 年度　宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議　運営委員・研修講師
2024 年度　社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鈎取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ナカジマ　ミドリ 氏　　名　中嶋　みどり	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉　学科	取 得 学 位　博士（心理学） （大学名）広島大学（取得年月）2005 年　3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
学生の理解度を知る工夫	2012 年 4 月～	・リアクション・ペーパーの活用を以下の点から利用している。①学生の理解度を知り、それに合わせ、質問、誤解をフォローする説明、②自身の考えを比較的短時間で言語化する学習の機会、③有益なリアクションペーパーの内容を抽出し、配布することで、多様な学生の考え、感覚を知る機会としての学びである。平常点として評価に反映させている。 ・受講人数によるが、1 人 1 人が心理臨床現場でどのように考え、行動・応答するかをホワイトボード,Jamboard 等、個人の回答やロールプレイの実践をもとにした発見型学習とマニュアルによらない実践的な事例に基づく授業を行っている。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
プレイセラピーから見た子どものこころの世界−初回面接を中心に−	単著	2019 年 3 月	仙台白百合女子大学紀要 第 23 号			27−47

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
①The content analysis of A-bomb survivor's psychological meanings of telling A-bomb's experience throughout their lives.	2019 年 7 月	Moscow, Russia(モスクワ大学)
②広島原子爆弾被害者の人生	2019 年 8 月	昆明
③被爆地を離れた被爆者の伝承活動に関する探索的調査	2022 年 3 月	オンライン
④ The exploratory study of testimony of atomic bombing experience on Hibakusha who moved from Hiroshima and Nagasaki.	2023 年 7 月	Brighton, UK(ブライトンセンター)

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本心理臨床学会		1998 年
日本子ども虐待防止学会		2000 年
日本発達心理学会		2000 年
日本児童青年精神医学会		2014 年
日本母性衛生学会		2003 年
日本遊戯療法学会		2006 年

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）

日本学術振興会	2015 年度～ 2019 年度		原爆被害者の人生にわたる心の傷と支え	2,080,000
日本学術振興会	2020 年度～ 2023 年度		原爆被害者の人生にわたる心の支え-被爆地を離れた人の一生も含めた検討-	1,690,000
日本学術振興会	2024 年度 2028		被爆者の体験の継承における工夫と博物館における教育普及活動に関する研究	3,510,000

３．特記事項

2019.2.11　（財）日本臨床心理士資格認定協会　資格継続研修会：いのちの臨床（事例検討会）　宮城県臨床心理士会代表ファシリテーター　（仙台国際センター）

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ　モテ ギ　チ アキ 氏　　名　茂 木 千 明	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　博士（学術） （大学名）　東北学院大学　（取得年月） 2004 年 3 月

2. 教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1.「紙上ソーシャルアトム」を活用した授業の実施	2013.4～	「心理福祉入門」の授業の中で、学生の自己理解に役立てることを目的に実施。
2.「心理福祉総合演習Ⅱ」「心理福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（2年基礎ゼミ） フィールドワーク研究指導・報告書作成・ 学外の調査協力者への報告書の送付	2015.4～	2015 年度：「個人としての私☆職業人としての私：女子大生の考える『就活メイク＆職業別メイク』」 2016 年度：「法学部でない私たちが『18 歳選挙権』について考えた」 2018 年度：「小学生の放課後の過ごし方・遊び場」 2019 年度：「高齢ドライバーの実態と対策　～若者に「できること」「伝えたいこと」「知ってほしいこと」とは～　」 2021 年度：「コロナ禍における消費傾向の変化と課題　～新しい生活様式の中でより快適に過ごすために～　」 2023 年度：「SNS 利用とトラブルの傾向と対策　～10 代の若者による Twitter の活用増加に着目して～」
3.「コミュニケーション演習」において ENDCOREsを用いて教育効果を測定	2022.4～	コミュニケーション・スキルについて授業回ごとに ENDCOREsで測定し、その変化を検討。学生自身も自分の 15 回授業を通しての変化を検討するjことで、コミュニケーション能力の向上に役立てることを目的としている。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
［著書］ ［論文］						

1. 守秘義務教育の現状と課題(1):保育園実習を終えた本学学生と現場の保育士および幼稚園教諭を対象として	共著	2013.6	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第 8 号	森本幸子・神田あづさ・皆川美雪・佐々木美恵・遠藤寛子		23-32 頁
2. 児童養護施設の子どもが作成した生活関係図:家族関係単純図式投影法を応用して	単著	2015.6	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第 10 号			29-36 頁
3. 守秘義務教育の現状と課題(2):教師とスクールカウンセラーを対象として	共著	2016.12	人間の発達(仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要)第 11 号	森本幸子・皆川美雪・神田あづさ・佐々木美恵・遠藤寛		41-47 頁
4.「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検討:受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着目して	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第 27 号	結城裕也・家子敦子		15-25 頁

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表

発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 女子大生にとって大切な・身近なモノや人:紙上ソーシャルアトムを活用して	2012.11	日本精神衛生学会第 28 回大会(東京農工大)

Ⅱ 所属学会

学会名	役職	入会年月(西暦)

日本家族心理学会 日本心理臨床学会 日本精神衛生学会 日本カウンセリング学会 日本学生相談学会		1993 1996 1996 1999 2008

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）

３．特記事項

［学内の活動］
1. 学生相談室　カウンセラー（2000. 10～現在）
2. 学生相談室　室長（学生相談室支援委員会委員長兼務）（2011.4～2013.10）
3. 学修支援センター　学生相談室　主任（2015.4～2020.3）

［学外の活動］
1. 2003～2010 年度 :「家族相談士」養成講座（仙台会場）講師　担当「家族アセスメント」
2. 2009 年度 （200.9.9.27）:「家族相談士」継続研修講座　講師　テーマ「カウンセリングに活かすアセスメント技法」
3. 2009 年度 （2009.5.16 & 10.31） :公立保育所合同業務研修（太白保育所・八木山保育所） 講師　講義および事例検討
4. 2012～2013 年度:復興大学復興人材育成教育コース「復興の思想」 講師　担当「復興の心理」（2 コマ） （2012.5.12 & 5.19）（2013.5.11＆5.18）
5. 2012 年度 （2012.12.19）:のびすく泉中央「育ちの楽校」 講師　テーマ「気になる！子どものしつけについて～2、3 歳児のへの親の関わり」
6. 2012 年度 （2013.2.16）:福島県北精神保健福祉士会×医療ソーシャルワーカー協会×社会福祉士会（合同研修会） 講師　テーマ「支援者の役割★私のキモチ」
7. 2013～2018 年度 （2013.7～2019.6）:宮城県臨床心理士会　倫理委員
8. 2016 年度（2016.11.19）:宇都宮家庭裁判所「家裁調査官研修」 講師　テーマ「家族関係単純図式投影法の活用:家族アセスメントの視点から」
9. 2017 年度（2017.9.21）:宮城子ども総合センター「現任保育士研修」 講師　テーマ「保護者や保育士間のコミュニケーションについて」
10. 2020 年度～現在:仙台いのちの電話　専門委員
    - （2020.11.14） 電話相談員養成講座　講師　担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」
    - （2021.7.25） 第 8 期ボランティアリーダー養成講座　講師　担当「発達心理学からみる近年のライフスタイルにおける諸問題」
    - （2022.2.12） 電話相談員養成講座　講師　担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」

・(2023.7.1) 第 49 期電話相談員養成講座　講師　担当「家族の心理」
・(2023.11.26) 第 9 期ボランティアリーダー養成講座　講師　担当「家族心理学身にみる近年の諸問題」
・(2024.4.28) 仙台いのちの電話 2024 年第 1 回公開講座　講師 「家族との関係を描くー家族理解と家族レジリエンスー」
・(2024.6.1) 第 50 期電話相談員養成講座　講師　担当「家族の心理」

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ユウキ ヒロヤ 氏　　名　結城 裕也	職　　名　准教授 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　　修士（社会学） （大学名）　東洋大学　（取得年月） 2005 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1.　学習到達テストの実施	2009.4～2014.3	生涯発達心理学，心理測定法の講義等に関連して，隔週で学習到達テストの実施しており，学生各人の学習の到達の程度を確認した。学習レベルが未達の場合は，個人面談を実施し，今後の改善点等を学生と話し合い学習成果を高める取り組みを行った。このような取り組みを続けた結果，学生の学習レベルが飛躍的に向上し，国家試験の成績も期待以上の結果を得ることができた。
2.　授業関連動画の視聴	2009.4～	社会心理学では，これまでに実施された古典的な実験を，当時の映像を振り返りながら解説した。社会心理学の実験の中には手続きが複雑なものも多く含まれるため，映像によって理解が深まることが期待される。また，生涯発達心理学では，乳児や幼児の行動を映像で視聴することで，より人間の原始的な側面を理解するのに役立つことが期待される。いずれの映像においても，学生からのフィードバックが大変評価が高いものであった。
3.　グループ内討議の実施	2013.4～2016.3	心理学実験において，想定した結果が得られたか否かに関わらず，どのような場合に想定した結果が得られない可能性があるのかをグループ内で討議し，各グループで発表を行った。これらの取り組みによって，教員側が一方的に実験をやらせるのではなく，結果に対して各人がどのような

		解釈を行うのかというクリティカル・シンキングを養うことを目指すものであった。このような取り組みによって，why という思考を持たせることに成功した。
4.　双方向型授業の実施	2013.4～2016.3	心理学実験調査実習 1 の講義で，「大きさの恒常性」を題材とした実験実習を担当した。事前に仮説を立てて実験を行い，得られたデータについて解析を行った。その結果について，学生と議論しながら，結果のまとめと考察，それらを踏まえたレポート執筆方法について詳細に説明を行った。なお，レポートの体裁，提出時間等，何度も指導を行い，単なるレポート課題にとどまらず社会に出るための準備としての指導も行った。
5.　双方向型授業の実施	2016.4～	少人数制のゼミ制度で，主に 8 名～10 名の構成員で双方向型授業を実施している。本学科の「地域に貢献する人材の育成」を目的に，函館地域で問題になっている事象についてフィールドワークを通じて明らかにし，その現象に対して社会心理学，産業・組織心理学的視点から，どのようなアプローチで解決へと導くのかを時間を掛けて検討している。なお，データの取得は，地元の中小企業を中心に，インタビュー調査，質問紙調査を実施し，結果を年度末に企業から一般市民へフィードバックしている。
6.　プレゼンテーション相互評価の実施	2019.4～	心理学基礎演習Ⅰ（論文講読）において，発表学生が PowerPoint を使用してプレゼンテーションをする際に，発表者以外が発表者のプレゼンテーションを「画面」「説明」の枠組みで，5 段階で評価をさせている。また，発表に関して「特に評価したい点と理由」，「改善すればもっと良くなる点」，「疑問点，もっと議論したい点」などの自由記述項目を設け，次週の授業の最初に全員の前で評価をフィードバックしている。それにより，自分のプレゼンテーションが他者からどのように評価されているのかを知ることができ，改善点も明確にできると考えてい

		る。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
1. ジャーナリストの惨事ストレス	共著	2009.12	現代人文社		報道人ストレス研究会（編） 執筆者：12 名	pp.83-89.
2. 心理学基礎実験を学ぶ―データ収集からレポート執筆まで―	共著	2016.3	北樹出版		大和田智文，鈴木公啓（編者） 執筆者：17 名	pp.20-29.
3. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	共著	2020.3	函館大谷短期大学紀要 第 34 号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.11-15.
4. 保育場面における保護者の苦情内容と苦情に対する保護者の認知：KH Coder を用いた分析	共著	2020.9	人間発達研究センター紀要 人間の発達 第 14 号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.69-76.
5. 若い保育者が保護者苦情対応に関するネガティブな精神状態を軽減するための認知方略（1）	共著	2021.3	函館大谷短期大学紀要 第 35 号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
6. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の心的健康に及ぼす影響	共著	2021.3	仙台白百合女子大学紀要 第 25 号	結城裕也・郡山昌明・渡邊兼行		pp.119-137.
7. 新卒５年目以下の保育者が保護者苦情対応によるストレスを軽減するための認知方略	共著	2022.3	函館大谷短期大学紀要 第 36 号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
8. 「職業意識」の高い保育者とは？―保育者を対象としたテキストマイニングによる分析から―	共著	2022.3	仙台白百合女子大学紀要 第 26 号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp. 17-32.

9. 試作版「保育者の職業意識尺度」の作成	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.7-13.
10. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検討	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	茂木千明・結城裕也・家子敦子		pp.15-25.
11. 若い保育者が保護者苦情対応をする際のストレス源，対処行動及びストレス軽減方略のバリエーションの検討	共著	2024.3	函館大谷短期大学紀要 第38号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-11.

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表

発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
1. 複合災害がもたらした「喪失」：浪江町民への面接調査から	2013.11	日本社会心理学会第54回大会発表論文集,（沖縄国際大学）
2. 感情労働及び感情労働後の対処方略と心身反応との関連	2014.7	日本社会心理学会第55回大会発表論文集,（北海道大学）
3. Effects of emotional labour styles on the sense of mental and physical burden -coping strategies as parameters-	2015.8	10th Biennial conference of asian association of social psychology（Cebu, Phillipines）
4. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング（1）	2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,（名古屋国際会議場）
5. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング（2）	2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,（名古屋国際会議場）
6. 保育者の保護者対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	2018.10	学校教育学会第24回年会発表論文集,（北海道教育大学）
7. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討—SCATを用いた20代保育者へのインタビュー分析から	2019.8	日本学校心理士会2019年度大会（聖徳大学）

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本心理学会 日本社会心理学会 日本感情心理学会 日本パーソナリティ心理学会	事務局幹事（2010.4-2013.3）	2003.4 2004.4 2005.4 2005.4

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
仙台白百合女子大学	2019	人間発達研究センター助成金	保育者の精神的負荷を軽減しうる保護者からの苦情認知方略の類型化	165,000
仙台白百合女子大学	2020	人間発達研究センター助成金	苦情に対する対処可能性と苦情処理結果の原因帰属が保育者の精神的健康に及ぼす影響	239,200
科学研究費助成事業	2021-2025	基盤研究（C）・研究分担者	保育者の保護者苦情対応に関するレジリエンス向上プログラムの開発	900,000
仙台白百合女子大学	2021	人間発達研究センター助成金	保育者の職業意識尺度の開発	196,600
仙台白百合女子大学	2023	人間学研究センター助成金	「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討	266,000

３．特記事項

（講演会・講習会等）

1. 三八漁業士会研修会（講師）「テーマ：北浜ほっき貝販売促進のための方策」（2018.2）
2. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座（講師）「心理学実験から見る人間の不思議」（2019.10）
3. 出張公開講座（講師）「心理学実験から見る人間の不思議」（ホテル佐勘）（2021.9）
4. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座（講師）「説得の心理学―人が動かされるメカニズム―」（2021.10）
5. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座（講師）「感情労働で苦しんでいませんか？―よりよく働くためのヒントを探る―」（2022.10）
6. 多賀城大学講座（講師）「心理学実験から見る人間の不思議」（2023.5）
7. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座（講師）「やればできる！」って本当？―心理学研究が解き明かす脱根性論―」（2023.10）

8.　岩切老荘大学講座（講師）「心理学実験から見る人間の不思議」（2023.5）

（社会的活動）

1.　FM いるか　いきいきライフスクール（解説）「テーマ：心理学実験から人を科学する」（2016.12）

2.　FM いるか　いきいきライフスクール（解説）「テーマ：心理学で映画を読み解く」（2017.12）

3.　キャンパスコンソーシアム函館　アカデミックリンク WG　副座長　（2017.4-2018.3）

（非常勤講師）

1. 仙台徳洲看護専門学校非常勤講師　（2020.4-）

2. 放送大学宮城学習センター非常勤講師（2023.4-）

3. 東京未来大学通信教育部非常勤講師（2024.4-）

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　タカタ ヨウヘイ 氏　　名　高田 洋平	職　　名　講師 人間学部　心理福祉　学科	取 得 学 位　　博士（地域研究） （大学名）　京都大学　　（取得年月）　2017 年　3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1．　教育内容・方法の工夫		
・アクティブ・ラーニングの導入	2019 年 4 月～現在	授業にディスカッション項目を設けるなど、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れ、学生の表現力や議論のための力を高める双方向の授業を行っている。
・記入式レジュメの導入	2018 年 4 月～現在	学生の授業に対する能動性を引き出すため、重要な語句や概念の一部については空欄とし、授業中に自身で記入を促すような記入式レジュメを導入した。
2．　作成した教科書、教材、参考書		
・『学びの技法（文書読解と作成）』「日本福祉大学テキスト」	2018 年 3 月	学生の初年次科目「学びの技法」の開発にともない、そこで使用する教科書を作成した.「第 7 講　クリティカルシンキング（批判的読解）」、「第 9 講　読解と要約」を担当し、学生の読解力をはじめとするスタディ・スキルを高めることを目的とした。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
[著書] 1.「第 4 章　ネパールの社会福祉」	共著	2020 年 3 月	『新　世界の社会福祉　第 9 巻 南アジア』旬報社。		日下部尚徳、5 名	127-159 頁
2.「第 40 章　ようやく始まった社会保障制度の構築」	共著	2020 年 3 月	『現代ネパールを知るための 60 章』明石書店。		日本ネパール協会、60 名	246-250 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
1.ネパールのストリート政策と運動	2020 年 10 月 4 日	南アジア学会第 33 回全国大会（京都大学）（ズーム開催）

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）

国際開発学会 日本社会福祉学会 日本文化人類学会 南アジア学会		2020 年 4 月 2010 年 4 月 2010 年 4 月 2010 年 4 月

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
1.日本学術振興会	2020 年度～2022 年度	科研費（若手研究）	ネパールの貧困層にとってのストリート空間と共同性	
2.日本福祉大学	2019 年度	助教研究特別支援＜A 枠＞	ネパールの貧困層とストリート空間	

３．特記事項

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ミウラ カズオ 氏　　名　三浦 和夫	職　　名　講師 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　博士（社会福祉学） （大学名）　東北福祉大学　（取得年月） 2017 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
(1)介護実習事例報告集の作成と介護実習事例報告会の実施	2013 年度～2017 年度	・最終段階の介護実習終了後は、実習中受け持った利用者の介護過程の振り返りを行い、介護実習事例報告集としてまとめている。また、介護実習事例報告会に向けて発表等の準備を行い、プレゼンテーション方法の向上につなげている。
(2)心理福祉実習報告集の作成	2013 年度～2020 年度	・心理福祉実習終了後は、実習内容をもとに報告書を作成し、心理福祉実習報告集としてまとめている。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
＜著書＞ ＜論文＞ ・「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究　－施設長へのインタビューを通して－」	単	2021 年 3 月	仙台白百合女子大学紀要第 25 号			89-98

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
①「介護サービス別にみる介護職員の離職要因に関する研究」	2019 年 9 月	第 27 回日本介護福祉学会
②「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究」	2020 年 10 月	第 28 回日本介護福祉学会

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
①　日本認知症ケア学会		2007 年
②　日本介護福祉学会		2007 年
③　日本感性福祉学会		2007 年
④　日本社会福祉学会		2008 年
⑤　日本老年社会科学会		2009 年
⑥　日本地域福祉学会		2020 年

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
日本学術振興会	2021-2023	令和 3 年度 科学研究費助成事業（若手研究）	「認知症の妻を介護する夫介護者の特性に関する基礎的研究」	2,210,000 円

3．特記事項

・学校法人　江渡学園　八戸社会福祉専門学校　非常勤講師	（2008 年～2010 年）
・学校法人　富澤学園　東北文教大学　非常勤講師	（2010 年）
・学校法人　富澤学園　東北文教大学短期大学部　非常勤講師	（2010 年）
・介護福祉士国家試験（実技試験）実地試験委員	（2013 年 3 月　～　2016 年 3 月）
・仙台白百合学園高等学校 非常勤講師	（2018 年 10 月　～　2020 年 3 月、2021 年 10 月～2023 年 10 月）

自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　ヨシダ ヒロミ 氏　　名　吉 田 弘 美	職　　名　講師 人間学部　心理福祉学科	取 得 学 位　修士（健康福祉） （大学名）　東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 （取得年月）　2005 年 3 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
①社会福祉士 2021 年度カリキュラムにおける実習教育研究会の実施	2022・10～	令和 5 年度より開始される「新カリ実習」へ向けて、宮城県内の養成校・社会福祉士会・実習指導者からメンバーを構成し、実習の枠組みの共有や実習教育・指導のあり方を検討することを目的に研究会を発足した。月 1 回(第 1 土曜)を定例会として、情報交換や共同研究を行っている。
②介護実習事例報告会の実施	2018.4～2023.3	介護福祉士養成課程では最終段階の介護実習終了後に、現場で学んだ受け持ち利用者の介護過程の展開を振り返り、事例報告集を作成している。特に、アセスメントと考察の個別指導を丁寧に行い、学生と語り合う中で介護観・福祉観をみつめる機会としている。 可能な限り、在学生、施設の実習指導者や入学を予定している高校生に参加を働きかけ、プレゼンテーション方法の向上につなげている。
③生活支援技術の授業展開の工夫	2018.4～2022.3	「移動の介護」では、1 年次の基礎学習を発展させ、泉中央付近での車いす外出を 2 年次に実施した。グループで立案した外出支援計画書に沿って体験学習を行い、事後指導にはレポート作成や報告会を行った。要介護者および介護者、地域住民の立場で多角的に考察することができた。 また、「福祉用具の活用法」の単元では、リハビリテーション工学の視点から評価する演習を行い、観察力、分析力を養った。
④「心理福祉基礎演習ⅠⅡⅢⅣ」ゼミ研究成果報告会の開催	2018.4～	初年次教育の学部共通科目「共通演習」を発展させ、「心理福祉基礎演習」で身近な地域課題にかかわるフィールドワークに向けて指導している。また、学科基演習の成果発表の機会として、白百合祭ならびに公開講座を企画運営する。学生の主体性。協調性・プレゼンテーション力を高め

		ると同時に、学科の教育の特色をアピールしている。
⑤「心理福祉専門演習ⅠⅡⅢⅣ」の授業展開の工夫	2018.4～	ゼミの大テーマである「施設における高齢者や障害者の生活のあり方」をもとに、学生自身の問題意識を尊重しながら研究テーマを設定している。文献研究のほか学外授業も取り入れ広い視野で学習を深めている。 成果として、3 年･4 年合同の報告会やゼミ論の執筆、2021 年度入学生からは学科必修として卒業研究指導に取り組む。
⑥「国際福祉体験実習」研修報告書の作成	2018.4～	心理福祉学科のグローバル WG 担当として、研修の企画立案と運営に携わる。2016 年度以降は活動報告書を作成し、学科の成果物としてオープンキャンパス等で紹介している。
⑦「介護総合演習ⅠⅡⅢ」の授業展開の工夫	2018.4～	介護実習の事前教育（アクティブラーニング）として介護現場を訪問し、学生自身が主体的に企画したアクティビティを実践することで、利用者とのコミュニケーション力や個別ケアの実践力を養った。
⑧学生生活実態調査の実施	2019･8	2014 年度に初めて実施された学生生活実態調査から 5 年が経過し、学生の動向や変化を把握するために 2 回目の調査を行った。教学委員会のワーキンググループリーダーとして取りまとめを行う。回収率を上げるために web 調査とし、結果は大学ホームページ上で公開した。
⑨「共通基礎演習」	2020.4～2021.3	本学の初年次教育の基礎となる学部共通科目として 2019 年度より開講し 2 年目となる。2020 年度の科目担当として、授業案作成など教育プログラムの検討を行った。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
【実践報告】 「地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践—2023 年度レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取組—」	共	2024・3	教職課程研究センタ報,2023年度,第3号,	家子敦子 仁藤喜久子		33－38
〔論文〕 「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022・3	聖和学園短期大学紀要 第 59 号	家子敦子 東海林初枝		117-135
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第 3 報	共	2022・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究　社 福 振 福二第 44 号	本名　靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり		1-68
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第 2 報	共	2021・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究　社 福 振 福二第 44 号	本名　靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり		1-53
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第 1 報	共	2020・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究　社 福 振 福二第 44 号	本名　靖 東海林初枝 家子敦子		1-63

〔論文〕 「環境因子から見た介護福祉士養成の現状」	単	2017.3	仙台白百合女子大学紀要 第 21 号			87-97
［報告書］ 東日本大震災における支援物資としての介護機器の支援状況に関する検証研究	共	2013.5	第 23 回フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団報告書	吉田泰三 樫本堅一 他 1 名		1-30
［研究ノート］ 初めての施設実習で遭遇した気がかりと感じた場面の分析～第1段階介護実習のリアクションペーパーより～	共	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要　第 15 号	家子敦子		89-96
[資料] 介護福祉士のための福祉用具評価ツールに関する一考察	単	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要　第 15 号			97-107

学術研究発表

発表テーマ	発表年月（西暦）	発表場所
（共）熊本地震における「支援物資としての福祉用具」に関する研究	2017.8	第 32 回リハ工学カンファレンス（兵庫県神戸市）
（共）介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 －介護過程展開法の施設研修の実施より－	2014.10	第 12 回日本介護学会（山口）
（共）施設介護職員へのキャリアアップ支援〔第 3 報〕 －介護過程実践研修前後の意識の変化-	2013.10	第 21 回日本介護福祉学会大会（熊本）
（共）「施設介護職員へのキャリアアップ支援」 －現場の実事例を用いた介護過程の実際－	2012. 9	第 20 回日本介護福祉学会大会（京都）

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本介護福祉教育学会 日本介護福祉学会 日本介護学会 日本社会福祉学会 日本行動療法学会		2001.4 2002.4 2004.3 2005.3 2009.6

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
公益財団法人　日本レクリエーション協会	2023	令和5年度研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流「健康スポレクひろば」の実践 ―レクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果―	4.5 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究　社福振福二第 44 号	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究（Ⅰ期）	300 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究（Ⅱ期）	300 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究（Ⅲ期）	298 万円

３．特記事項

〔非常勤講師〕

・白百合学園高等学校 2・3 年生「福祉総合」2018・12-2019・1、2023・11

〔研修会講師など〕

・平成 26 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師（「介護過程の理論と指導方法＜演習＞」担当）　2014・7

〔教員講習会の受講状況〕

・社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了 2019・8・

・介護技術講習会主任指導者 2008.9

介護教員講習会修了（厚生労働省）2007・10

〔委員等〕

・宮城県「ケアスタッフサポートセンター」相談員 2023・7-2025・3
・みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度（第 2 段階）確認調査員 2020・4～
・社会福祉法人仙台白百合会評議員　2017・4～
・第 26 回介護福祉士国家試験（実技試験）実地試験委員 2014・3
・平成 25 年度仙台市泉区介護認定審査会委員　2013・4～2017・3、2019.4～
・平成 23 年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力員 2011・7

〔社会貢献など〕

・いずみ絆プロジェクト事業「しらゆり健康倶楽部」2023・6～2023・11

・平成 24 年度被災者就労支援事業　2 級訪問介護員養成研修 2013・1、2013・2

・被災者就労支援事業　２級訪問介護員養成研修　「高齢者、障害者の心理」、「相談援助とケア計画の方法」、「実習前指導」の講義担当　2012・2

・宮城県介護福祉士会の要請により、東日本大震災時の避難所での夜間介護支援に従事する。2011・3、2011・5

〔宮城県介護従事者人材確保対策事業〕
・2018 年度　宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(94 万円)

・2017 年度　宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(530 万円)

〔学内活動〕

・仙台白百合女子大学後援会理事 2019・4～2020・.3
・2019 年度学生生活実態調査の実施、報告書作成（教学委員会副委員長）2019・4～2020・3
・白百合カフェ（認知症カフェ）の開催　2016・3～2017・3
・2014 年度仙台白百合女子大学出張講座 2014・6（三戸高校）、2014・11（石巻北高校）
・サークル「チアリーダー部 VELVETS 顧問 2010・4～　（現在、休部中）